

リモート授業を受けて 学生の意見

- 平成2年6月15日
- 東京学芸大学教育学部中学校課程理科教育専修
- 動画11分50秒
- <https://youtu.be/c1-wbsr9A2w>

サービス残業を正当化 している

- 教員の仕事や部活動について、ブラックであると言い切った方が潔いという点は、少し釈然としないものであった。確かにブラックであるということを隠すよりは良いのかもしれないが、個人的な願望としては、その現状を改善しようとしているといった答えが聞きたかった。また、教員の仕事はそこで終わりという制限がないため、業務や仕事時間が多くなってしまうということは理解できる。しかし、それについて「本人次第であるため、ある意味ではブラックではない」という返答は、いわゆるサービス残業を正当化するような言い訳に聞こえてしまった。

先生は世間 知らず

- 先生は世間知らずかどうかというテーマについてです。今回の動画では、先生は世間知らずという意見に反対ということでしたが、私的には、社会の中で出世競争やビジネス、営業活動のような社会の多くの人が経験することを経験していない先生方が、世間知らずといわれるのはしかたないことだと思っています。このような社会経験を通してこそ問題解決能力やコミュニケーション能力の大切さや実用性に気づくのに、そのようなことを経験できていない先生方が、勉強の大切さを語るのには少々無理があるとも思ってしまう。

教職に魅力 があることは 分かっている

- 世間的に教師という仕事がブラックだと認識されつつある中で、教職を勧める先生方はブラックだということを棚上げにしてやりがいばかりを強調される方が多いように感じます。しかし教育学部に入った私たちの多くは教職の素晴らしさを既に感じたからこそ教育学部に進学したわけで決してそれを知らないわけではないと思います。むしろ私を含め多くの友人が心配していることは自分たちが厳しい労働環境の中で専門職として生徒に十分な教育サービスを提供できるのかということで、決して教職に魅力を感じていないということではないと思います。

自己犠牲の 覚悟

- 将来の仕事を考える上で非常に勉強になった。教員といった公務員系の職種は世間的な評判や長年のスパンの給与で考えた場合、「安定」というイメージが高い。しかし、そのようにして既得権益を獲得してしまった教員は他のキャリアの仕事に触れる時間をなかなか確保することができないために人間として成長しようとする姿勢が早い段階から喪失してしまう恐れがあると考えた。教職に就いたら自己犠牲をしてでも子どもの成長を思った行動が取れるような人材を日々目指さなければならない、一種の覚悟のようなものの必要性を感じた。

自分が相手 を信頼する

- 物が無くなった時に「誰が取ったの？」と疑うのではなく、「どうして無くなったのか？」とみんなで考えることが大事だという話がとても印象的だった。教師に疑われると、生徒も教師を信じる事が出来なくなってしまう。そのため生徒と向き合い信頼関係を築くには、まず自分が相手を信頼することが大切だと思った。

物事を正しく 視る力が 求められる

- 学校では性善説が幅を利かせるという言葉に、意外と盲点だったと感じた。一方で管理職はそうでない対応を求められるということから物事を正しく視る力が教員以上に求められるのではと感じた。

教員が高い意 識を持つこと がブラックな 環境をブラッ クだと感じない ポイント

- 教員はブラックだとよく言われるが、授業準備や部活動などの仕事については教師自身の裁量でどこまで追求するかを決めることが出来る。教員が高い意識を持つことがブラックな環境をブラックだと感じないポイントになるのではないかとおもう。